

# — 成城大学 —

2月2日 全学部 英語

## 解答

〔Ⅰ〕

1. b    2. d    3. a    4. d    5. c  
6. a    7. c    8. a    9. a    10. c  
11. c    12. c

〔Ⅱ〕

13. d    14. b    15. b    16. a    17. b  
18. b    19. a    20. d    21. b    22. c

〔Ⅲ〕

23. c    24. b    25. a    26. c    27. d  
28. b    29. e    30. b    31. d    32. c  
33. a    34. b    35. e    36. a    37. a  
38. c    39. c    40. b    41. e    42. c

〔Ⅳ〕

43. e    44. c    45. c    46. a    47. c  
48. b    49. b    50. e    51. b    52. a  
53. b    54. a

その他の大学・学部の解答解説はコチラ！

[増田塾 2019 解答速報ホームページ](#)



早慶上智・GMARCH・関関同立などをはじめとした難関大学の解答解説を随時公開していきます！

**解説**

〔I〕

1. **by accident** 「偶然に」  
第5段落にも **But when the team manipulated the enzyme to explore this connection, they accidentally improved its ability to eat PET.** 「研究チームがその関連性を検証するためにその酵素を操作していると、彼らは偶然にもポリエチレンテレフタレートを分解する能力を向上させた」とあるため、この内容に相応しいものを選べば良い。
2. **a real finding** 「真の発見」についての詳細が、次の文で述べられている。**The mutant enzyme takes a few days to start breaking down the plastic — far faster than the centuries it takes in the oceans.** 「突然変異によって生まれた酵素が数日かけてプラスチックを分解し始める。海の中では数百年かかるため、はるかに速いのである」とある。この内容に相応しいものを選べば良い。
3. **we won't need to dig up any more oil** 「これ以上石油を採掘する必要はなくなるだろう」とあるが、これは前文でも述べている「プラスチックのリサイクル」により、今後プラスチックを精製するために必要な石油の必要性が低下することを意味していると判断できる。それに相応しいものを選べば良い。
4. **harming marine life and potentially people who eat seafood** 「海洋生物や、潜在的には海産物を食べる人間にも害を及ぼす」とある。それに相応しいものを選べば良い。
5. **one of these wonder materials that has been made a little bit too well** 「あまりにも良くできた素晴らしい素材の一つ」とある。**too**～「～すぎる」という言葉で表現されている否定的側面は、前文でも述べられている **resistant to degradation** 「劣化しにくさ」である。この性質が、リサイクルを困難にしているという逆説的状况を生んでいる。それに相応しい選択肢を選べば良い。
6. **a public driver** 「民衆からの推進力」については、下線部直後のコロンの後に具体的説明がある。そこには「(世間の)認識が大きく変わってきたため、企業はリサイクル方法について注目し始めている」とある。これは、一般大衆の意識の変化のことについて述べていることだと分かる。それに相応しいものを選べば良い。
7. **point** には「要点、主旨」という意味がある。ここでは、直前の **It is a modest improvement — 20% better** 「20%の向上」を受け、その数値の低さは問題ではないことを述べている。これはまだこの酵素の働きに向上の可能性が残されていることを意味している。それに相応しいものを選べば良い。

8. 下線部の **possible improvement** 「これから起こりうる改善」については、この文の補語、つまり **to** 不定詞の部分で説明されている。特にこの文の末尾では「10～100 倍速く分解する」とあり、分解スピードの向上について触れられていることが分かる。
9. 下線部の訳は「そもそも、生産されるプラスチックの量を減らすことが望ましいのかもしれない」であり、リサイクル方法の改善に優先して重要となる前提を述べている。また、選択肢 **b** は **waste plastic** の部分が不適切である。
10. **Adisa Azapagic** 教授は、この酵素の有効性を認めてはいるものの、長期的な評価の必要性も説いている。それに相応しいものを選べば良い。
11. 選択肢 **a**. 第 3 段落第 1 文参照。  
選択肢 **b**. 第 4 段落第 1 文参照。  
選択肢 **d**. 第 2 段落第 2 文以降参照。
12. 特に注目すべきは、第 1 段落の第 3 文である。**The new research was spurred by the discovery in 2016 of the first bacterium** 「その新しい研究は、2016 年における、自然にプラスチックを分解する能力を持った最初のバクテリアの発見に端を発した」とある。**spur** という動詞を知らなくても、**S [be] Vp.p. by A** といういわゆる受動態の表現においては、**A** が原因、**S** が結果となるような因果関係が成立すると考えられたのではないだろうか。このバクテリアの発見をきっかけとして、新しい研究が始まったのである。この点に注目できれば、選択肢 **b** と **d** は可能性がないことが分かる。

## 〔Ⅱ〕

13. I was already (**familiar with**) the Internet from studying in the United States...  
「私はすでにアメリカでの研究でインターネットに(慣れていた)」
14. **feasible** 「可能な」
15. **prohibitively** 「手に負えないほど」
16. **reach out to** ～ 「～に手を差し伸べる」
17. Unfortunately, Pokhara was still about a day-and-a-half walk down the mountain, which made checking your email (**inconvenient**).  
「不運なことに、Pokhara はまだ 1 日半かけて山を下りたところにあっただので、E メールをチェックすることが(不便で)あった」

18. At that point, WiFi was still an **(emerging)** technology.  
「当時、WiFi は(登場したばかりの)技術であった」
19. I realized that if we could connect my village to the Internet, we could use that **(same)** model to connect villages all over the country.  
「もし私達が、私の村をインターネットに接続させることができれば、私達は全国の各村を接続させるために、(同じ)モデルを利用することができるだろうと思った」
20. We **(ended up)** becoming very popular...  
「私達は、(結局)有名になり...」  
end up～「結局～という状態になる」
21. The students in the secondary schools are using the Internet all the time for research and are growing up digitally literate.  
「小学校では子ども達が何かを調べる時はいつもインターネットを使っているので、(コンピューターを扱う能力のある状態)に成長しつつある」
22. 本文における smart は「コンピューター化した/自動式の/高性能の/ハイテクの」という意味である。

## 〔Ⅲ〕

23. should have Vp.p. 「V すべきだったのに」  
ought to have Vp.p. 「V すべきだったのに」  
might have Vp.p. 「V したかもしれない」  
have to V 「V しなければならない」  
先行詞は coins, jewellery or other valuable items という複数名詞なので選択肢 d は不適。
24. 否定疑問文に対する返答の方法を確認しておくこと。Yes / No が日本語と逆になるので注意。
25. used to be～「以前は～だった」
26. 「高いところが怖いので、一度も山に登ったことがなかった」という意味。
27. 過去の一点から見た未来は、would を用いて表現する。
28. 仮定法過去の基本問題。

29. the は「1 つに特定できるもの」や「読み手と書き手で共通のものとして頭に浮かぶもの」に対して用いられる。
- (i) on the way home from～「～からの帰り道で」
  - (ii) 「1 万円紙幣」は、この段階では 1 つに特定できていないので、冠詞は a になる。
  - (iii) for a while 「しばらく」
  - (iv) ここでは、彼が拾った 1 万円紙幣を指していることが分かるので冠詞は the になる。
  - (v) 最上級の前に置かれる冠詞は the である。
33. (a) said → told  
第 4 文型を取る told に直す。say は第 4 文型を取らないことは頻出事項。
34. (b) less → fewer  
less は little の比較級なので、不可算名詞とともに用いる。こちらも正誤問題では頻出。
35. (e) I'll → I  
時を表す副詞節中では、未来のことも現在時制で表す。
36. (a) are you → you are  
間接疑問文の語順に注意。「疑問詞＋平叙文」になる。
37. (a) works → work  
work を「仕事」という意味で用いるときは不可算名詞である。可算名詞の works は「作品」という意味。
38. How many times は頻度を表す疑問詞。have been to～で「～に行ったことがある」という意味。
39. designed は形容詞の働きをする過去分詞で、ここでは補語で使われている。空所には designed を修飾する語を入れる。形容詞を修飾するのは副詞である。
40. exchange A for B 「A と B を交換する」の受動態。
41. 付加疑問文の作り方を問うもの。
42. 「彼は長崎で生まれた」という意味なので過去時制を選ぶ。

〔IV〕

43. / 44.

One of the reasons the government (can keep taxes so low) is because a large chunk of its revenues comes from land sales.

45. / 46.

If property values drop, the government can't generate as much revenue, (meaning there's little incentive to) seriously curb Hong Kong's cost of housing.

47. / 48.

Culture shock is a common phenomenon and, though it may take months to develop, it often affects travelers and people living far (from home in unexpected ways).

49. / 50.

While individuals experience these stages differently and the impact and order of each stage varies widely, (they do provide a guideline) for how we adapt and cope with new cultures.

その他の大学・学部の解答解説はコチラ！

増田塾 2019 解答速報ホームページ



早慶上智・GMARCH・関関同立などをはじめとした難関大学の解答解説を随時公開していきます！